

『命の大切さを学ぶ教室』を受講して』

島根県

島根県立出雲高等学校 三年

わたなべ ゆうな  
渡部 優菜

生きているってすごく幸せなことだなと、今日の講演を聴いて強く感じた。

私は、事故でケガをしたこともないし、事故で命を落とした人の家族の話やその時の状況の説明なども聴いたことがなかった。ニュースで、「どこどこでこんな事故・事件がありました。」ということを知り、情報を得るだけだった。でも今回、初めて、実際に遺族の方のお話を聴き、どのような思いなのか、どのようにして命を落としたのか、事故後の遺族の後遺症、精神の状態など、様々なことを知った。「一つの事故」ではなく、もし自分だったら：家族が：友達が：など自分の身近な存在と重ね合わせながらお話を聴いた。

大学生という、まだまだ生きていくべき真理子さんが亡くなってしまった原因が飲酒運転ということに、私はとても大きなショックを受け、いらだちを感じた。それと同時に真理子さんのご家族はどれだけ多くの悲しみを抱いたのだろうと思ひ、もし、自分が家族を失ったら、本当に立ち直れなくなるなと思ひ、自分が死んだら、自分の家族に悲しみを抱かせることになってしまふなと思ひ、

「命のメッセージ展」では、事故などで亡くなられた方が白いオブジェとして表れ、それを見た多くの人が涙を流して、亡くなられた人々のメッセージはこのようにして今を生きる人につながっているのだなと思ひ、そのような機会を設けられた方もすごいなと思ひ、心に強く残った。実際に前の方に展示されていた写真やオブジェ、大きなハートを見てみて心がぎゅゅと締め付けられた。悲しい気持ちと同じくらい、命を大切にしないと強く思ひ、瞬間だった。

真理子さんのお姉さんが真理子さんの死をお母さんの電話で知ったときのことを聴いたときには、電話という耳から入ってくる音声だけで、一人で身近な大好きな存在の人の「死」という情報を得るのは、本当につらくて、苦しいものだったのだろうなと感じた。実際にその後のお姉さんの後遺症として電話恐怖症になったり飲酒という行為をする人に対して憎いと感じたり、真理子さんの人生の分まで生きようと思ひ、精神の面でも大きなショックを受けてしまったと知り、一人の「死」は、多くの人々の心を蝕むものなんだなと思ひ、

一度刑務所に入った人の半分はまた、所に戻ることが多いということを知り、驚いた。もっとも世界の中の多くの人が命の大切さ、命の重さ、一人の死が周りに与える影響の大きさなどを知って生きる必要があると感じた。

「被害者も加害者も出さない社会」を実現するためにはどうしたらよいのだろう。自分には何ができるのだろう、と考えた。被害者を出さないためには加害者をつくらない、加害者を出さないためには、すべての人が交通ルールを守り、自分の命を自分以外の人の命を大切

にして生きていく必要があると思う。

「あたりまえ」のように食事をしたり笑ったり、泣いたり、人と話したり、勉強したりで  
きるのは命があるからなんだと改めて強く思った。今回の講演を通してもう一度命の大切  
さを再確認し、日常があることに喜びを感じながら生きていきたいと思った。